

第5回 鳥取西道路技術検討委員会概要

- 開催日時；平成31年1月24日（木）11:15～12:30
- 会議場所；鳥取河川国道事務所 会議室（1F）

○重山地区

1) 現在の状況について

- ・現在の状況及び、斜面・トンネルの経過観測状況について説明
- ・主な委員意見
 - トンネル観測結果については、掘進状況とトンネル計測結果から、トンネル完成後に変位が収束していることを分かり易い資料として残した方がよい。

2) 斜面の変状要因について

- ・地形的素因、水文的素因、及びメカニズムについて説明
- ・主な委員意見
 - 地下水が大きく影響していることを確認できた。

○松原地区

1) 現在の状況について

- ・現在の状況、及び斜面の経過観測状況について説明
- ・主な委員意見
 - 変状に対し各種対策工が有効に機能しており、安全性が確保された。

○まとめ

- ・両地区とも計測結果に異常はなく、対策工が有効に機能しており、安全性が確保された。なお、引き続き経過観測を行い、状況を確認すること。
- ・両地区とも施工中に平成30年7月豪雨や、大雨となった平成30年9月の台風24号を経験しており、天候による影響がないことを確認した。

○工事完了時期（鳥取河川国道事務所）

- ・懸案となっていた松原地区、重山地区の対応について目処が立ったことから、早期開通を目指して努力する。

[重山地区]現状について

位置図



空撮



現地状況



素因

◇地質的素因

- ・地盤内にすべり面となりうる熱水変質した薄い粘土が面的に複数存在。
- ・大きく2つのヒン岩層が流れ盤状に存在しており、かつ地質境界部は粘土化。
- ・この粘土部は部分的に膨潤性鉱物を含有。

◇水文素因

- ・強風化した深い花崗岩層に雨水等が浸透。
- ・ヒン岩層の地質境界部の粘土層は難透水層を形成。
- ・周辺から地下水の集まりやすい地形であった。

メカニズム

- ・雨水等が強風化花崗岩部より深層部（粘土層上層）へ浸透。その粘土層上層に沿って雨水等が流下し、乾湿が繰り返されることで粘土層が脆弱化。
- ・地盤内の薄く複数存在する粘土層が切土による応力開放に合わせてすべりを発生。

⇒複数の薄い粘土層において変状が存在し、またヒン岩層の地質境界部の粘土層の脆弱化によりすべり範囲が拡大。**複雑で大きな地すべりであることが判明**

〔松原地区〕現状について

位置図



現在の状況

